

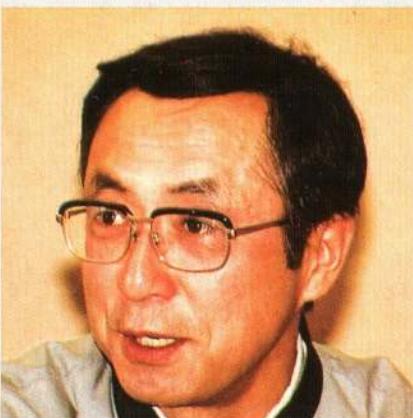
新春放談

消えつつある今だから。

「語り継ぎたい 大館弁」



生涯学習奨励員
虹川貞子さん
(山田渡)



生涯学習奨励員
兜森喜一さん
(飼釣)

コドキヤダ・アガトリ・ アイドリ

高松 この「あの人はコドキヤダひとだわがままで」という川柳の「コドキヤダ」はよく使いますよね。「非常識だ」とかそういう

兜森 方言は話すとわかりますが、

きがありますね。

文字だとわかりにくいですね。

日景 この川柳はどうですか。力ヶジがら鬼来てらではオヒルばば」。『カゲジ』って、みんなわかれますか。

畠山 「カゲジ」は家の裏のこと。

高松 そうなんですか。私は「隠児」という意味もありますし。

河田 これは昔からあった言葉で、万葉集の中にも出ているんです。

カゲジ

柴田 今日は、大館市生涯学習奨励員のかたに大館弁についての放談ということで集まつていただきました。司会進行は私、柴田が務め、話の中で民話評論家の河田さんには解説を加えていただきます。

始めて「生涯学習フェスティバル」で募集した、大館弁の川柳をもとに話を進めていきたいと思います。



司会進行
柴田 生涯学習課長補佐

「家の後ろ」という意味なんですね。「垣内」と書いて「カフシ」や「カフチ」と言っていたのが「カゲジ」となったわけです。

柴田 古語が変化して方言になつたつてことですか。

河田 そうです。こういう言葉は結構あるんですよ。

日景 この川柳で思い出したんですが、子どものころは「カゲジさ行ぐな」とよく言われたものです。

柴田 それはどうしてですか。

日景 「カゲジ」にはどぶろくが

モッケ

高松 「モッケ」はカエルのこと。兜森 カエルは「ギャロ」とも言います。

畠山 どぶろくは、においが強いので、隠していても近付くとわかるんですね。

虹川 稲務署の取り締まりが来ますと、半鐘を鳴らして知らせたところもあつたそうです。

柴田 どぶろくはみんなの家で作つたの?

日景 作りましたよ。柴田さんの家では作らなかつたんですか。

柴田 うちは親が警察官だつたんですよ。

日景 わつ、それは話す相手、間違えたな。(笑い)

柴田 「つら」は「ぼお」のことです。

日景 わつ、それは話す相手、間違えたな。(笑い)

高松 ですから、この川柳は「お酒を飲めなかつた子どもが、成長して、カエルが顔に水を浴びても苦にならないのと同じくらい飲めるようになった」という意味じゃないですか。

畠山 なるほど、わからました。

河田 「つら」は「ぼお」のことです。昔は生活語として使われていました。こちらでは「つら」は卑下するような感じですけど、それが「つら」ではないんです。

柴田 「つら」は国語辞典に載つてますよね。

兜森 ええ。漢字では「面」と書いて「泣き面にハチ」とか。

柴田 ただ何となく、方言的な響きがありますね。

高松 「モッケ」はカエルのこと。兜森 カエルは「ギャロ」とも言います。

畠山 だから「モッケのつら」は、「カエルの顔に」という意味です。

日景 「つら」って「顔」のことか。「つらい」だと思った。

高松 ですから、この川柳は「お酒を飲めなかつた子どもが、成長して、カエルが顔に水を浴びても苦にならないのと同じくらい飲めるようになった」という意味じゃないですか。

畠山 「モッケ」はカエルのこと。兜森 カエルは「ギャロ」とも言います。

高松 「モッケ」はカエルのこと。兜森 カエルは「ギャロ」とも言います。

畠山 だから「モッケのつら」は、「カエルの顔に」という意味です。

日景 「つら」って「顔」のことか。「つらい」だと思った。

高松 ですから、この川柳は「お酒を飲めなかつた子どもが、成長して、カエルが顔に水を浴びても苦にならないのと同じくらい飲めるようになった」という意味じゃないですか。

畠山 「モッケ」はカエルのこと。兜森 カエルは「ギャロ」とも言います。